

シンポジウム

日時

11月13日(土)

午後6時より

会場

秩父市歴史文化伝承館

参加費

無料

内容

・活動報告

斎藤 英次 (玉淀ダム撤去への取り組み経過)

内藤 定芳 (玉淀ダムの機能)

・講演

講師 溝口 隼平氏

紹介文

「国内ダム撤去事例の概要と課題」

玉淀ダムは灌漑用水と水力発電のために1964年に建設されました。その結果、上流域と下流域の生態系は遮断され、上流域の魚類資源は壊滅的な状況にあります。長瀬～玉淀の遊船観光も途絶え、地元の観光業衰退に拍車をかけています。玉淀ダムの是非について考えるシンポジウムです。

玉淀ダム

ム

影の環境への 響を考えるの



玉淀ダムが造られた背景とダムの機能

- ・戦後の復興期、日本は各地にエネルギー供給と農業用水確保のためのダム建設を計画しました。その計画のひとつが玉淀ダムの建設でした。
- ・隣接する大里地区は広大な農地がありながら、農業用水の不足に悩んでいました。
- ・ダム建設の当初計画は、発電だけの目的だったようです。しかし、隣接地が水不足に悩んでいたため計画は変更され、**発電と灌漑の2つの機能を持つ玉淀ダム**を建設することになりました。
- ・ダムは昭和39年に完成し、用水は大里地区を中心に38平方キロメートルの農地に最大5 t/毎秒の水を供給する能力を持ち、発電は最大4300kw/Hの発電をする能力を持っています。
- ・でも、荒川の水量は常に安定しているわけではありません。近年の状況を見ると、農業用水は2 t/毎秒程度、発電は2000kw/Hと能力の半分程度しか発揮できないのが実情です。
- ・下流の人達は玉淀ダムに洪水調節の機能があるように思っている人が多いようですが、**玉淀ダムは洪水調節の機能のないダム**なのです。上流に雨が降り水量が増すと、玉淀ダムは6つのゲートを開放し、下流に流してしまうのです。写真を見ても解かると思いますが、少しの流量オーバーでもゲートを上げ、貯めている水を下流に流しています。



なぜ玉淀ダムが話題なのでしょう

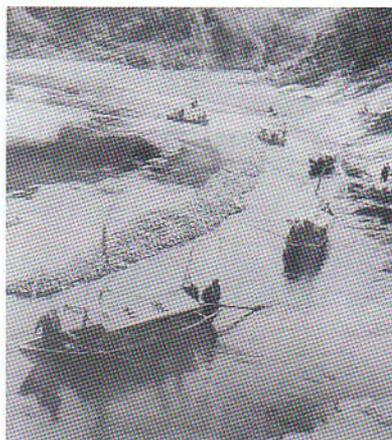
- "ダムを建設すれば観光客で賑わう"と云う言葉に期待を込め承知したが、良いことはほとんどありませんでした。今は"承知した私達が生きている内に元の荒川に戻して欲しい。"と云う地元住民の声が多数聞こえます。

——ダム建設時の期待は話しかけただけでした。昔の船下りができる荒川に戻して欲しい。と言う声が地元から聞こえます。——

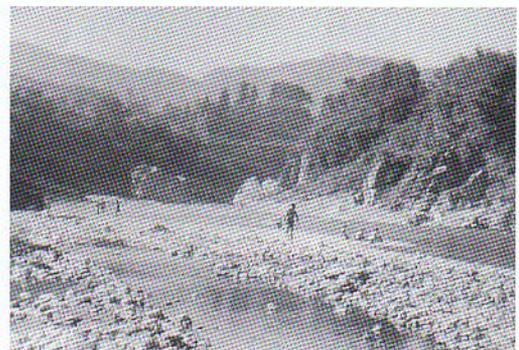
——ダム稼働と同時期に、ダムに接する農地の崩落が始まりました。住民の"何とかして!"の声に対し、県は土地を買上げたただけでした。地元住民は将来への心配は尽きません。——

ダム建設以前の風景

船下り風景



川遊び風景



- ダムによって生態系は分断され、上流部は水産資源の減少で多大な被害を受けています。
——回遊性魚類、特にアユやウナギが著しく減少しています。——

ダムが無くなった場合の対策はあるのでしょうか

- 農業用水の供給は大丈夫なのでしょうか。
——当初の農業用水対策は、取水口を荒川の上流部に設置し自然流下で取水する計画でした。当初計画のように、秩父鉄道樋口駅付近までパイプを敷設し、取水口を設置すれば自然流下で取水できます。——
- クリーンエネルギーの水力発電が減るのはもったいないと思いますが
——埼玉県が直接管理し発電していた数年前までは、毎年大きな赤字を出していたようです。年平均2000Kw/Hを家庭用ソーラー発電に換算すると約700軒分です。仮に赤字が1億円だったとすれば、50万円の助成を200軒に行き普及を促進すれば、3年半で玉淀ダムの発電に匹敵する代替発電が可能になります。クリーンエネルギー確保の代替はソーラー発電で十分に可能です。——

溝口隼平氏プロフィール

S56年生まれ。04年人間環境大学卒。2003年、『Dam removal』執筆者来日にあわせ第3回世界水フォーラムへ。NGO団体River Policy Networkの設立メンバーと出会い設立時より参加。以後NGO活動をしながら、国内外のダム撤去に携わる研究者や行政の方々と交流する。国内のダム撤去にまつわる情報を収集しデータベースの作成に携わる。08年よりRPNと東京大学農学部との共同研究員となる。2010年11月より、2012年撤去予定の荒瀬ダムがある熊本県八代市へ移住。球磨川再生のための調査取組を開始。

スケジュール

- ・開 場 午後5時30分
- ・開 会 午後6時
- ・主催者挨拶
- ・活動報告 齋藤 英次
内藤 定芳
- ・講 演 講師 溝口 隼平氏 午後6時40分(60分)
- ・開場参加者との自由討論 午後7時40分(60分)
- ・アピール採択
- ・閉 会 午後9時

主 催

NPO秩父の環境を考える会

後 援

秩父市※、横瀬町、皆野町※、長瀬町、小鹿野町、寄居町

埼玉県河川環境団体連絡協議会、秩父の川づくり懇談会、秩父地域環境問題連絡協議会

埼玉県漁業協同組合連合会※、秩父漁業協同組合、埼玉中央漁業協同組合※

NPO荒川流域ネットワーク※、NPO水フォーラム、NPO荒川クリーエイドフォーラム

NPO荒川学舎秩父、ふるさと荒川の清流をよみがえらせる会、秩父ケーブルテレビ

※は申請中の団体です。

環境ボランティアを募集しています！

NPO秩父の環境を考える会は秩父地域の環境問題を研究・解決するための行動することを目的に平成6年に設立しました。環境変化による絶滅寸前の植物の保全や、田んぼの生き物、市民の憩いの場であるミューズパークの整備等を手がけています。荒川の自然を守る活動もしています。活動は自然体で、参加した人達ができる仕事を無理のない形で取り組んでいます。あなたの力を貸して下さい。お待ちしております。

NPO秩父の環境を考える会 事務局 秩父市荒川上田野1465-6 TEL(FAX)0494-54-1518
荒川再生プロジェクトチーム チーフ 齋藤 英次 TEL(FAX)0494-22-1015 E-Mail eiji@ski.email.ne.jp

このシンポジウムはサイサン環境保全基金の支援を受けて開催しました。